

東京新聞

手軽な大衆武道

スポーツチャンバラ

ストレス解消、健康に役立つ

昔、神社や寺の境内でよく見かけたチャンバラごっこが、スポーツ競技として登場した。剣道のかしこまったルールを取り払ったもので、老若男女を問わずに親しまれ、サラリーマンのストレス解消法や、中高年者の健康法として人気。正規の授業に採用した中学もある。自由奔放に楽しめるこのスポーツチャンバラは、制約すくめの社会の中で、気分を発散させるのに大いに役立つニュースポーツ。

東京都大田区立馬込東中学校(常盤木好夫校長)の体育室で放課後、生徒たちの「チャンバラごっこ」が展開される。課外クラブの小太刀護身道部のメンバーだ。ジャージ姿に面の防具を着けた生徒たちが、ソフト剣を振り回して派手に打ち合っている。楽しんで集中力養う剣を正眼に構えるものもい

防具面にソフト剣

東京の中学で 正規の授業に 制約なく自由



「さあ、かかってこい」と元気いっぱい動き回るスポーツチャンバラの部員たち＝東京・馬込東中で

打たれたり、流儀のないチャンバラ遊びを楽しんでいるようだ。「みんな気ままにやっています。集中力が養えます」とチャンバラの一年生。

剣だけ。その剣は強化プラスチック製のしん棒に、スポンジを巻いた軟らかいもの。打たれに竹刀の持ち方はこうだ、といったときの快音のわりに衝撃

れば、フェンシングのように剣を片手に半身に構えるものもある。長剣を使うもの、短剣を使うものなどスタイル、道具とも好みのままだ。打つところも無制限で、打ったり

は少ないという。同校にこのニュースポーツを取り入れたのは細川健一教諭で、剣道三段。昭和六十二年に東海大を卒業して新任、剣道部の顧問になった。体育館が週一日しか使えず、部員が練習できない実情を見て、机を片付ければ教室でもできるスポーツチャンバラを始め

ない。遊びのようでも武道の要素を守っているのが、礼儀の傘下にスポーツチャンバラ協会を設けた。「いまの子どもたちは棒を持つと危ない」といふから、振り回すと危険だとひんじゅくをかう。そんな斥伏教育はやがてゆがみを生むものになる。力いっぱい発散させ、考えるチャンスを与えれば、次第に力の加減と限界を知るようになる」との持論を表現させたもの。つまり護身道を一般に普及させるための愛称ともいえる。



自分だけの「自然流」

それによって体力をつけ、スポーツを通じての心の鍛錬にしたい」と、細川先生の指導するニュースポーツに子どもたちの真の姿を見いだし、部活動として認めるほか、正式な課内クラブ(週一時間)にも採用した。部活動としては他校でもみられるが、正式の授業として行っているのは、

都内では同校だけという。このスポーツチャンバラの発案者は、横浜市中央区にある全日本護身道連盟会長の田辺

自分だけの「自然流」
剣道のように全身に防具を着けないのは、打つことより、打たれないことの大事さを実感させるため。ルールの規制にこだわらないのは、自分だけの「自然流」が、一番精神的、健康的によいからだといひ、護身術の精神をちゃんと組み込んでい

ばしながらの無手勝流チャンバラは、手軽な大衆武道に育ちつつある。